

地方都市視察報告書

総務区民委員会

1 実施日 平成25年10月23日

2 視察地 愛知県 豊橋市

【市の概要】

(1) 面積 261.35km²

(2) 人口・世帯数(平成25年4月1日現在)

○人口 379,678人

○世帯数 149,718世帯

(3) 豊橋市は、愛知県の東南端に位置しており、東は静岡県、南は太平洋、西は三河湾に面した温暖な気候に恵まれた地である。

江戸時代には、東海道五十三次34番目の宿場町として人馬の往来が盛んで、また、豊川の水利と渥美湾における海運により、物資の集積地として栄えた。明治39年に市制を施行し、第二次世界大戦後、東三河地区が工業整備特別地区に指定されたことで開発整備が進められ、また、豊橋港(現・三河港)が開港するなど、産業発展が進んだ。平成11年には「中核市」へ移行している。

現在は、自動車産業をはじめ、製造業が盛んであり、また、三河港は、自動車の輸入が1993年以降全国第1位を続けているなど、日本を代表する自動車流通港となっている。

平成25年4月1日現在の外国人登録者数は14,303人であり、このうちブラジル人が7,294人と約半数を占めている。

3 視察項目・内容

多文化共生の推進について

- ・ 多文化共生推進計画について
- ・ 外国人市民会議について
- ・ 外国人児童生徒教育相談事業について

4 視察参加者

【委員】

沢田あゆみ委員長

井下田栄一委員

宮坂俊文委員

田中のりひで委員

平間しのぶ副委員長

池田だいすけ委員

のづたけし委員

中村しんいち委員

なす雅之委員

かわの達男委員



【随行】

議会事務局次長 北村仁英 議事係 白井友広

5 視察結果・所感

豊橋市は、平成2年以降、日系ブラジル人が急激に増加し、人口の約半数が外国人という町もあるほど外国人が多く住んでいる状況である。そこで、平成21年に多文化共生推進計画を策定し、様々な推進策を実施している。推進計画には、具体的な目標指標が設定されているが、そのなかで外国人の自治会活動等への参加率については、平成25年の目標値50%に対して、現状16・7%と、低迷している項目もあり、苦慮されている状況がうかがわれた。担当者からは、日本人住民の意識を変えていくことも大切である旨の説明があり、共通の課題が多くあることを痛感した。

外国人市民会議は、公募により選出された10人の市内在住外国人で構成されており、平成22年から年3回実施。災害発生時の初期対応など、外国人を取り巻く身近な課題などの意見交換を行っている。このような会議を定期的に行っていることに意義があると感じた。

当日は、長年教育委員会で外国人児童生徒教育相談員をされている築樋博子氏にもお話をうかがった。豊橋市教育委員会は、独自で外国人児童・生徒やその保護者等に対する支援を行っており、現在16名の相談員が学校等へ直接入って通訳や生活習慣の相談に至るまで、きめ細かい支援を行っているとのこと。外国人生徒（中学校）の不登校率が、平成15年には20%を超えていたのが、平成24年には5%近くまで下がったり、高校の進学率が50%から81%に上がったりと、継続してきめ細かく相談事業を実施してきた効果が表れていて、大変すばらしいと感じた。新宿区においても、多文化共生まちづくり会議で外国にルーツを持つ子どもの教育環境の向上や、災害時における外国人支援について検討が進められているところであり、今後の多文化共生を推進するうえで、大変有意義な視察であった。

6 主な質疑項目

- (1) 多文化共生推進計画に掲げる目標値の達成状況とその対応策について
- (2) 外国人市民会議の参加状況について
- (3) 外国人の自治会加入率向上のための対策について
- (4) 外国人の子どもへの支援における多文化共生推進部署と教育委員会との連携について
- (5) 企業との連携について
- (6) 外国人児童生徒教育相談員の人材の確保について
- (7) 未就学児童の実態把握とアプローチの方法等について

7 その他

【共同視察者】地域文化部多文化共生推進課長 太田公一